

(様式2)

ふるさとキャリア教育モデル事業実施報告書

1 事業地域の概要



教育委員会名	八頭町教育委員会	
教育委員会 担当者及び連絡先	所属・役職	八頭町教育委員会・参事兼指導主事
	氏名	岩城 知子
	電話	(0858-84-1231)
対象となる学校名	八頭町立郡家東小学校・郡家西小学校・船岡小学校・八東小学校、 八頭町立八頭中学校、鳥取県立八頭高等学校	
実務担当者名	郡家東小学校 教諭 青木典子 ・郡家西小学校 教諭 谷口三千代 船岡小学校 教諭 露木克久 ・八東小学校 教諭 繁内靖彦 八頭中学校 教諭 田中 聡 ・八頭高等学校 教諭 中林直樹	

2 目的

八頭町内の小中高で連携し、キャリア・パスポートを活用して効果的に学年間や学校間をつなぎ、ふるさとキャリア教育を充実させることで、子どもたちが自分らしい生き方を実現し、自己実現に向けて主体的に課題解決に向かう意欲や態度を育てていきたい。そして、鳥取県に誇りと愛着をもち、将来にわたってふるさとである鳥取県や八頭町に思いをはせながら自己実現をめざせるような子どもを育てる。

3 内容

(1) 各学校の実態

町内小学校 (4校)	 <p>学校ごとの特色を生かしつつ、町内小学校の共通教材(道徳・特活)を年間計画に位置付けて実施した。道徳の人物教材においては、学年ごとに共通のワークシートの活用を行い、町内4小学校で地域共通の学びとなるように、連携を図った。船岡小学校では、副読本「八頭町の道徳」で扱う人物教材を総合単元的に学習することにより、児童が地域の歴史や伝統に誇りや愛着もち、受け継ごうという気持ちが高まった。また、学級活動においては、学ぶことの意義に触れる学習で共通のワークシートを活用した。</p>  <p>町出身のゲストティーチャーに学ぶ機会は、地域のすばらしさを知り、将来ふるさととどう関わるかについて考えるきっかけとなった。ゲストティーチャーの思いや行動から新たな気付きや感動をもつ児童もあり、先輩との出会いや体験を通して学ぶことの大切さを実感した。</p>
---------------	---

	<p>保護者への啓発は学校便り・学級通信などで働きかけ、キャリア・パスポートへの記入もお願いしている。また、職員間で互いに声を掛け合い時期を逃さず取り組むことや、基礎的・汎用的能力の視点でキャリア育成を考えるなど意識が高まってきた。</p>	
<p>八頭中学校</p>	<p>特別活動、総合的な学習の時間、道徳と関連付けたキャリア・パスポートの活用を年間計画に位置付けて実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で2年生は職場体験が中止となったが、「大江ノ郷自然牧場」への企業訪問を行った。3年生は「未来ビジョンを語ろう」として町出身の写真家水本氏の講演を聴いた後、自分自身のめざす人間像、地域との関わり、地域への貢献、具体的な進路や職業について考えてプレゼンを作成し、1、2年生に向けて語る学習を行った。自らの未来ビジョンを語る3年生の姿は1、2年生にとっての目標となるものになった。</p> <p>また、副読本「八頭町の道徳」を活用し、古井喜實氏について学習を行い、町出身の先人についての生き方を学んだ。2年生が予定していた1月20日の八頭高ライブ体験は、新型コロナウイルス感染症の影響のため、高校訪問は中止になったが、八頭高生に来校してもらい高校進学に向けて知りたいことを共有するなどして、自分の進路選択に生かす学習を行った。1年生は総合的な学習で8名のゲストティーチャーを招き、2年生での職場体験につながる「働く人と論じる」講演や討論を行った。また、PTA活動と連携して、八頭町の身近な場所や事業所についての動画作成に取り組み、ふるさとの新たな価値の再発見をめざした。</p>	 
<p>八頭高等学校</p>	<p>今年度より学校設定科目「翠陵探究」を2年生体育・看護医療・総合理科・総合文科類型で新設した。鳥取大学や地域の企業、八頭町と連携し、地域課題を探究する学習を行った。学習のテーマを「翠ヶ丘から世界へ羽ばたく～ローカルからグローバルへ」とし、スポーツ、健康、SDGs等のそれぞれのグループで研究から発表準備まで取り組んだ。鳥取大学のアドバイザーに助言をもらったり八頭町、地元を中心とした企業等にインタビューして各事業の情報収集を行ったりするなど、課題解決に向けてできることについて仮説を立て、検証していった。学びをデザインし、考えをまとめ、伝え、深めていくことに取り組んだ。</p>	

(2) 目標及び成果指標（取組指標）

- ふるさとキャリア教育に係るアンケートを実施し、年度当初と年度末の比較により肯定的意見が各項目で向上する。
- キャリア・パスポートを活用した取組状況を情報交換し、学校間の連携方法等を検討しながら

ら各学校で計画的に実施する。

(3) 取組の内容

- 町内担当者連絡協議会（年3回）を実施し、各校の取組やその成果と課題を共有し連携を図りながら、各学校での年間計画に基づいてキャリア・パスポートを活用する。
- 町内小中高ふるさとキャリア教育合同研修会を実施し、授業実践を参考にしたりキャリア・パスポートの活用についての講演を聴いたりすることで研修を深める。
- 町内小中高の児童生徒と教員に、7月・2月にふるさとキャリア教育についてのアンケートを実施し、実態を把握、分析・評価し、次年度に生かす。
- 町内小中高12年間のキャリア・パスポートの構成表を作成し、町内で共通して縦のつながりを意識した取組ができるようにする。

(4) 事業の実績

時 期	事業（活動）内容
5月27日 (木)	第1回町内担当者連絡協議会 キャリア・パスポートの活用と小中高の連携について
7月上旬	(1回目) 町内小中高児童生徒・教員ふるさとキャリア教育アンケート実施
8月23日 (月)	第2回町内担当者連絡協議会 アンケート結果の分析と今後の方向性の確認
11月25日 (木)	<p>町内小中高合同研修会 (八頭中学校にて実施)</p> <p>◆3年生「未来ビジョンを語ろう」 「世界から見た鳥取！写真家が語る郷土の魅力」 ゲストティーチャー 水本 俊也 氏</p> <p>◆講演会 ①講演会 「写真家が世界から見た鳥取、そのルーツを語る」 講師 水本 俊也 氏（八頭町出身 写真家） 参加者 56名</p>  <p>②情報交換 ふるさとキャリア教育合同研修会 参加者 12名 児童生徒が将来にわたり夢や希望をもち、ふるさとを大切にしつつ自分の人生を切り拓いていくことのできる考え方・生き方につなげる学びとなるよう、指導方法の改善や質的向上を図るための助言をいただいた。また、小中高で、児童生徒の思いをつないでいくことのできるキャリア・パスポートの効果的な活用についての様々なアイデアをいただくことができた。</p>  

1月下旬～ 2月上旬	(2回目) 町内小中高児童生徒・教員ふるさとキャリア教育アンケート実施
紙面での情報 共有に変更	第3回町内担当者連絡協議会 今年度の取組の成果と課題についての協議、アンケート結果の分析 来年度の方向性の検討 ※実施の検討をしたが新型コロナウイルス感染症の影響で紙面共有に変更した。

4 取組結果

(1) 成果

- ・町内担当者連絡協議会で話し合い、小学校4校の横のつながりを大切にした共通の実践として、道徳と学活を核として共通教材に取り組む認識が高まった。道徳で共通の人物教材を扱っていない小学校1～3年生では、町内共通の道徳の単元の確認を行い、共通のワークシートの共有などについて話し合った。また、「道徳学習構成図」の活用も行い、他教科と関連させ総合単元的に扱うことで、取組をより充実させることにつながった。子どもたちの学びが、より主体的で協働的なものとなり、ふるさとを思う気持ちや将来への志を育むことにより有効に働いていると感じている。
- ・今年度は、小中学校共通のゲストティーチャーとして、八頭町出身の写真家に関わっていただくことができた。興味をもったことは徹底的にチャレンジすること、広い世界を見ることで鳥取のすばらしさを再認識したことなど、子どもの発達段階に応じて分かりやすく話していただいた。写真家という目線で、見慣れたふるさととの身近な風景でも、カメラを通して切り取ることで新たな気付きや驚き、感動が生まれることについて、体験プログラムを通して学ぶことができた。新型コロナウイルス感染症の影響のため、プログラムが途中から計画通りに進められなかったが、今後の取組につながる学習や体験を行うことができた。
- ・児童生徒アンケート結果では、7月と2月の肯定的評価を比較すると

「ふるさと（八頭町・鳥取県）が好き」	(小中) 92% → 96%
	(高) 94% → 95%
「地域の良さや取組に関わる人の思いや生き方を知っている」	(小中) 88% → 83%
	(高) 61% → 59%
「地域やふるさとの未来のために自分にできることを考え、行動する」	(小中) 61% → 71%
	「考える」 (高) 60% → 57%
	「行動する」 (高) 40% → 36%
「将来は鳥取県を様々な場面で支え関わりたい」	(中) 77% → 78%
	(高) 74% → 75%

と肯定的に回答した児童生徒が増加し、地域への愛着が高まってきている。特に、中学校及び高校の結果では、全学年を平均すると上記の結果だったが、学年ごとの内訳は、いずれも3年生で最も肯定的評価が高くなっていた。入学後、新しい環境や人間関係の中で学びを積み重ねていきながら、地域への愛着を高め、自分の将来の進路やふるさととの関わり方について、真剣に考えていく様子がうかがえた。

- ・ 7月と2月に実施した教員アンケートを比較すると、小中学校では、

「ふるさと鳥取県（八頭町）に誇りと愛着を持ち、郷土を支える人材を育成」

R 2 33.3% → 56% R 3 87% → 92%

「教科等の指導に当たって、地域社会の学習の題材として取り扱い」

R 2 30% → 42% R 3 80% → 84%

「児童生徒に対して、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導」

R 2 32.3% → 45%、 R 3 81% → 93%

「地域の自然、歴史、文化等から学ぶ体験活動及び探究的な学習の取組」

R 2 25.6% → 48% R 3 66% → 73%

「保護者に対するキャリア・パスポートの説明や児童生徒への活用」

R 3 58% → 71%

小中高12年間の流れがわかるキャリア・パスポートの構成表を作成し、来年度の小中、中高の連携がより行いやすくなった。どのような学習を積み上げることが子どもたちのキャリア発達につながるかを考え、見通しをもちながら学習計画を立てることができた。また、各学校でキャリア・パスポートを計画的かつ効果的に活用し、主任を中心として取組を推進しようという意識が高まった。昨年度と比較しても教員の意識が大きく変わり、各学校の特色を生かしながらふるさとキャリア教育の視点をもって計画的に取り組んだ成果と思われる。

- ・ 高校での教員アンケートにおいても、

「教科等の指導に当たり、地域や社会について学習の題材として取り扱った」

R 3 肯定的評価55% → 58% その内「行った」15.8% → 30.2%

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行った」

R 3 肯定的評価81% → 77% その内「行った」28.9% → 32.6%

の項目で、数値が向上した。肯定的評価の中で「どちらかといえば行った」が減少し、「行った」が増加したことから、教員の取組への意識の変化がうかがえる。この取組が、3年生徒で最もふるさとへの愛着意識や行動化、貢献への思いが高まっていったことにつながっていると思われる。

(2) 課題

- ・ 今年度も新型コロナウイルス感染症のため行事の多くが中止になった。「地域の行事に参加」67% → 74%と増加はしたが、地域の人との出会いや交流の場が限られてしまうことは、非常に残念だった。地域の人と顔を合わせ、つながる場を児童生徒が体験する機会がなくなり、思いや行動化につながりづらくなることが懸念される。来年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、どのような学習を行うことができるか、検討や工夫が必要である。また、学びを有意義な気付きにつなげるための教員の事前準備、気付きを価値付ける声かけ、行動化につながる場の設定など、意図的に計画することが必要である。
- ・ 来年度からコミュニティ・スクールがスタートする。これまで学校が地域の方に依頼し、教育活動に関わっていただいていたが、来年度からはコミュニティ・スクールの仕組みを活用して、学校と地域が子どもたちの成長のためにできることを出し合い、地域学校協働活動が充実するよう連携を図る。

- ・今後、児童生徒が気付くだけでなく、思いを伝えたり様々な形で発信したりできる学習を進めていく。また、学習での学びを発信したことが、地域や人々のために役に立ったという実感がもてるよう、地域との関わりを工夫し指導を計画したい。
- ・小学校6年生時に作成したキャリア・パスポートの中学校での活用方法を明確にすることや、中学校3年生時に作成したキャリア・パスポートの高校での活用方法を明確にすることなど、縦のつながりの充実が十分に図れていないという点が課題である。

(3) 次年度の取組

- ・引き継いだキャリア・パスポートの活用の推進
 - いつどのようにキャリア・パスポートを活用するかを校内で共有し、小中連携や中高連携に生かしていく。先進的な取組を紹介し、自校に合った方法で実施できるようにするなどし、縦のつながりが円滑に引き継がれるように取組を推進する。
- ・縦のつながりの充実
 - これまで小学校4校の特色を生かした取組を大事にしつつ、町内共通の取組が充実するように取り組んできた。また、小学校の学習内容を確認し、中学校での学びが新たに積み上がり、学習内容に重なりがないように見直しを行ってきた。高校においては、鳥取大学や町内企業との連携で探求的な学びが始まり、ふるさとの未来に向けて貢献できることを考え、社会における自らの生き方を模索した。このように、小中高それぞれの取組が充実し、小学校での横のつながりが図られてきたが、縦のつながりが十分でないのが現状である。
 - 中学校および高校の年間計画やキャリア・パスポートの構成を再度見直し、児童生徒の発達段階に応じた円滑なものになるよう、縦のつながりを意識した小中高の学習内容を整理していく必要がある。
- ・地域での「思考と行動化」の場を設定
 - 児童生徒アンケートでは、「地域の良さや取組に関わる人の思いや生き方を知っている」の項目の数値が下がったことから、地域での体験を意識した活動で児童生徒の学びが充実するよう計画し、実践を積み上げることが必要である。引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響のために体験や交流が制限され、困難な面が懸念されるが、工夫しながら検討していきたい。

(様式2)

ふるさとキャリア教育モデル事業実施報告書

1 事業地域の概要



教育委員会名	八頭町教育委員会					
教育委員会 担当者及び連絡先	所属・役職	八頭町教育委員会・参事兼指導主事				
	氏名	岩城 知子				
	電話	(0858-84-1231)				
対象となる学校名	八頭町立郡家東小学校・郡家西小学校・船岡小学校・八東小学校、 八頭町立八頭中学校、鳥取県立八頭高等学校					
実務担当者名	郡家東小学校	教諭	青木典子	郡家西小学校	教諭	内田雅子
	船岡小学校	教諭	露木克久	八東小学校	教諭	谷口三千代
	八頭中学校	教諭	田中 聡	八頭高等学校	教諭	中林直樹

2 目的

八頭町内の小中高で連携し、キャリア・パスポートを活用して効果的に学年間や学校間をつなぎ、ふるさとキャリア教育を充実させることで、子どもたちが自分らしい生き方を実現し、自己実現に向けて主体的に課題解決に向かう意欲や態度を育てていきたい。そして鳥取県に誇りと愛着を持ち、将来にわたりふるさとを思い鳥取を支えていく力を八頭町で学ぶ子どもたちに付けていく。

3 内容

(1) 各学校の実態

町内小学校 (4校)	<p>学校ごとの特色を生かし、特別活動・特別の教科 道徳・総合的な学習の時間・教科学習等と関連づけたキャリア・パスポートの活用を年間計画に位置づけて実施した。保護者への啓発は学校便り・学級通信などで働きかけ、キャリア・パスポートへの記入もお願いしている。また、職員間で互いに声を掛け合って時期を逃さず取り組む、基礎的・汎用的能力の視点で学習を捉えるなど意識が高まってきた。</p>	 
---------------	--	--

<p>八頭中学校</p>	<p>特別活動、総合的な学習の時間、特別の教科 道徳と関連づけたキャリア・パスポート活用を年間計画に位置づけて実施しようとした。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの行事が中止となり、予定通りに進めることができなかった。2年生は職場体験も八頭高ライフ体験もできなかったため、今後八頭高生に来校してもらい、高校進学に向けて知りたいことを共有するなどして、自分の進路選択に生かす学習を計画している。</p>	
<p>八頭高等学校</p>	<p>進路学習、教科学習、学校行事、部活動、地域活動等で基礎的・汎用的能力を育成するため、キャリア・パスポートを活用しようとしたが、十分活用しきれなかった面がある。職員の取組に温度差がある面も感じる。地域に根差した学習にするため、探究的な学習を鳥取大学や八頭町と連携し推進していく方向で検討している。</p>	

(2) 目標及び成果指標（取組指標）

- アンケートを実施し、年度当初と年度末の比較により肯定的意見が各項目で向上する。
- 各学校でキャリア・パスポートを計画的に実施する。

(3) 取組の内容

- 町内担当者連絡協議会（年3回）を実施し、各校の取組やその成果と課題を共有し連携を図りながら、各学校での年間計画に基づいてキャリア・パスポートを活用する。
- 町内小中高ふるさとキャリア教育合同研修会を実施し、授業実践を参考にしたりキャリア・パスポートの活用についての講演を聴いたりすることで研修を深める。
- 町内小中高の児童生徒と教員に、7月・2月にふるさとキャリア教育についてのアンケートを実施し、実態を把握、分析・評価し、次年度に生かす。
- 町内小中高12年間のキャリア・パスポートの構成表を作成し、町内で共通して縦のつながりを意識した取組ができるようにする。



(4) 事業の実績

時 期	事業（活動）内容
6月30日 (火)	第1回町内担当者連絡協議会 キャリア・パスポートの活用と小中高の連携について
7月上旬	(1回目) 町内小中高児童生徒・教員ふるさとキャリア教育アンケート実施
9月4日 (金)	第2回町内担当者連絡協議会 アンケート結果の分析と今後の方向性の確認
12月4日 (金)	<p>町内小中高合同研修会（船岡小学校にて実施）</p> <p>◆6年授業公開 地域教材「八頭町の道徳」の資料「星への情熱～本田實～」の学習を通して、町内の先人の生き方や知恵、地域を思う気持ちや志を学ぶ道徳学習の授業公開を行い、研修を行った。</p> <p>◆情報交換と指導助言及び講演会</p> <p>①情報交換 「特別の教科 道徳・各教科・特別活動等におけるふるさとキャリア教育の効果的な取組とキャリア・パスポートの活用について～つながり・ひろがり・かかわりを通して～」というテーマで、5～6人ごとの小グループでそれぞれの学校での取組について話し合った。グループ討議後、参加者全体でも情報を共有し、今後の取組の参考にした。</p> <p>②講演会 「ふるさとキャリア教育と道徳教育～ふるさとを一生の心の支えに～」 講師 武庫川女子大学 押谷 由夫 教授 児童が将来にわたり夢や希望をもち、ふるさとを大切にしつつ自分の人生を切り拓いていくことのできる考え方・生き方につなげる学びとなるよう、指導方法の改善や質的向上を図るための指導助言をいただいた。また、小中高で、児童生徒の思いを育てつなげていくことのできるキャリア・パスポートの効果的な活用についての示唆をいただいた。</p>  
2月上旬	(2回目) 町内小中高児童生徒・教員ふるさとキャリア教育アンケート実施
2月25日 (木)	第3回町内担当者連絡協議会 今年度の取組の成果と課題についての協議、アンケート結果の分析 来年度の方向性の検討

4 取組結果

(1) 成果

- ・町内担当者連絡協議会を開くことで、各学校の実施状況や好事例を共有できた。それにより、各校の取組を充実させることにつながった。
- ・アンケート結果から「ふるさと（八頭町・鳥取県）が好き」94.4% → 96.7%、「地域の良さや、それに関わる人の思いや生き方を知っている」77.8% → 81.8% と肯定的に回答した児童生徒が増加し、地域への愛着が高まってきている。
- ・各学校でキャリア・パスポートを計画的かつ確実に作成し、主任を中心として取組を推進しようという意識が高まった。
- ・小中高12年間の流れがわかるキャリア・パスポートの構成表を作成し、来年度の小中、中高の連携がより行いやすくなった。どのような学習を積み上げることが子どもたちのキャリア発達につながるかを考えることができた。
- ・7月と2月に実施した教員アンケートを比較すると、「ふるさと鳥取県（八頭町）に誇りと愛着を持ち、郷土を支える人材を育成」33.3% → 56%、「教科等の指導に当たって、地域社会の学習の題材として取り扱い」30% → 42%、「児童生徒に対して、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導」32.3% → 45%、「地域の自然、歴史、文化等から学ぶ体験活動及び探究的な学習の取組」25.6% → 48%と、すべての項目で数値が向上した。教員の意識が大きく変わり、各学校の特色を生かしながらふるさとキャリア教育の視点をもって計画的に取り組んだ成果と思われる。

(2) 課題

- ・7月と2月のアンケートの比較では、新型コロナウイルス感染症のため行事の多くが中止になったことが影響し、「地域の行事に参加」84.4% → 73.0% と前向きな姿勢が低下した。また、「自分の良さ、学級の良さに気づき、故郷の良さを伝えたり広げたりするための思考や行動化」の項目も71.6% → 69.0%と肯定的意見が低下した。この結果から、地域の人とつながる場を児童生徒が体験する機会がなくなり、思いや行動化につながりづらかった面があるのではないかと考えられる。来年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、どのような学習を行うことができるか、検討や工夫が必要である。また、学びを有意義な気づきにつなげるための教員の事前の声かけや気づきを価値づける声かけ、行動化につながる仕掛けなど、意図して計画することが必要である。
- ・教員アンケートと児童生徒アンケートの結果には温度差が感じられる。今後、児童生徒が気づくだけでなく、思いを伝えたり様々な形で発信したりしていくことができるような学習につなげたい。また、気づき、伝え、取り組んだことが、人のため地域のために役に立ったという実感がもてるよう、指導を工夫していくことが必要である。

(3) 次年度の取組

- ・引き継いだキャリア・パスポートの活用
小中連携や中高連携に生かされるように、いつどのように生かすかを校内で共有して、有効に学習につなげる実践を行う。
- ・縦と横のつながりの整理
小学校4校の特色を生かした取組を大事にしつつ、町内共通の取組を確認する。そのため、まず中学校の年間計画やキャリア・パスポートの構成を再度見直し、生徒の発達段階に応じた円滑なものになるよう、小中の学習を整理する。そして、小学校でも各校で取り組んでいることを整理して、横のつながりを見直して共通の実践を行う。
- ・地域での「思考と行動化」
アンケート結果から課題がみられたため、地域を意識した活動で児童生徒の学びが充実するよう検討し、実践をする。